

発行所

札幌市北区北15条西7丁目
北大医学部同窓会
TEL&FAX (011) 706-5007
E-mail: furate@med.hokudai.ac.jp
http://hokudai-med-dousou.com

編集人 田中 伸哉
発行人 浅香 正博

北大医学部同窓会新聞



「有志竟成 本庶 佑」

CONTENTS

- (1) 北海道大学医学部創立100周年記念事業
本庶佑京都大学高等研究院副院長・特別教授
特別講演会の開催について
- (2) 北海道大学医学部 創立100周年
医ノ、知 ～新たな100年への知の挑戦～
- (3) 教授退職挨拶……………大滝 純司
教授就任のご挨拶
……………木下 一郎 近藤 英司 高橋 誠
- (4) 春の褒章、叙勲
島山 昌則 藤永 明 堀江 洋三 横田 慎一
- (5) 新世紀の医学に向けて(36)……………矢部 一郎
2019年医師国家試験の北大生合格状況について
……………久住 一郎
- (6) 祝・スキー部東医体15連覇……………関 宏樹
- (7) 医学部医学科公認サークル紹介シリーズ 第1回
アンサンブル・フラテ……………中駄 勇太
北大医学部漕艇部……………佐久間智也
- (8) 創立100周年を「獅子の会」も応援 ……中村仁志夫
同窓会から創立100周年に寄せて
北海道大学医学部創立100周年記念
オリジナルアイテム第2弾
- (9) 北海道大学医学部創立100周年記念事業募金への
ご協力をお願い
- (10) 北海道大学医学部百年記念館
～工事の進捗状況をお知らせします～
- (11)
- (12) フラテ106号発行のお知らせ
告知板
事務局からお知らせ
- (13) 新刊書紹介
- (14) 過年度会費が2年を超える会費未納者と
同窓会誌の発送について
北海道医学会からお知らせ
同窓会費の納入は口座振替で
同窓会費納入のお願い
ご逝去者 一面の写真説明 編集後記

北海道大学医学部創立100周年記念事業 本庶 佑博士 特別講演会の開催について

今年4月に創立100周年を迎えた北海道大学医学部は、7月27日(土)、2018年ノーベル生理学医学賞を受賞した本庶佑(ほんじょたすく)京都大学高等研究院副院長・特別教授を演者に迎え、教職員や学生を対象とした特別講演会を医学部学生会館「フラテ」ホールにて開催いたしました。

会場には300名を超える教職員、学生、関係者等が集まり、追加で設置した臨時座席を含め満席でのスタートとなりました。まず初めに主催者挨拶として、医学部創立100周年記念事業実行委員会委員長である吉岡充弘医学部長(60期)並びに医学部創立100周年記念事業後援会会長である浅香正博医学部同窓会長(48期)が挨拶を述べられ、続いて共催者である華岡青洲記念心臓血管クリニック理事長の華岡慶一座長(60期)から、ノーベル生理学・医学賞を受賞を含む本庶氏の輝かしい業績の紹介が行われました。

本庶氏は、「獲得免疫がもたらした驚くべき幸運」と題した講演の中で、京都大学での恩師である早石修氏との出会いから、これまで自身が手がけてきた研究について振り返ると共に、がん治療の未来の可能性について語られ、「非常に多くの人との出会いやさまざまな幸運な遭遇によって、好きな研究を

続けてこられた。今の若い世代にも、そのような機会が与えられるべきだ」と、若手研究者が研究に打ち込める環境や機会の必要性を訴えられました。

特別講演に引き続き行われたパネルディスカッションでは、そのテーマを「医学研究の未来像～本庶先生にきく、次世代の医学研究・教育のありかた～」と題し、吉岡充弘医学部長がコーディネーターを務め、パネリストに本庶佑特別教授のほか、浅香正博同窓会長、華岡青洲記念心臓血管クリニック院長の松居喜郎名誉教授(56期)、岩崎倫政医学研究院副院長が登壇しました。パネルディスカッションの進行にあたっては、事前に参加者から集められた質問を元に、各パネリストの専門分野より基礎と臨床の両面から次世代の医学研究・医師養成のあり方等について活発な討論が行われました。その中で本庶氏は、生命科学が飛躍的に進歩し研究手法が大きく変わりつつある中で、医学研究が進むべき方向性を問われ、「体内の分子の活動はある程度解明されてきたが、生物をひとつのユニット全体として理解できなければ、医者は本当の意味で人を治せない。」と話し、テクノロジーによる細分化が進んだ現状から、今後は全体を見る集約的思考の充実が医学研究全体の課題だと述べ

られました。

その後の本庶氏への質疑応答においては、参加者の中から学生が中心となり熱のこもった質問が寄せられ、学生時代をどう過ごすかについてアドバイスを求められた氏は、「研究者になりたいのならば、『好奇心』が重要である。」と語り、人生の具体的な目標を定めた上で自分の一生をかけて知りたいことに出会うことの重要性を述べられました。また氏は、基礎研究者の育成について「基礎研究は自分で考えたことを、

自分の思う通りにできるエキサイティングな分野だ。自分も後世がそう思えるようなきっかけを作ってあげたい。」と強調されました。

最後に、現役医学部生の江端美織さん(100期)が感謝の意をこめて本庶氏に花束を手渡すと会場は盛大な拍手に包まれ、笠原正典北海道大学理事・副学長(56期)が閉会の辞を述べ、約3時間に及ぶプログラムは盛会のうちに幕を閉じました。



後列左から：玉腰(会員2)、篠原(60期)、瀬谷(52期)、村上、岩崎(会員2)、島山(66期)、田中(66期)
前列左から：浅香(48期)、笠原(56期)、吉岡(60期)、本庶、華岡(60期)、松居(56期) (敬称略)

写真提供：株式会社Novello

北海道大学医学部 創立100周年

HOKKAIDO UNIVERSITY
SCHOOL OF MEDICINE
100 years ANNIVERSARY
1919 - 2019

100th

医ノ、知

Wisdom in Medicine

～新たな100年への知の挑戦～

2019 10/12 SAT 14:00-20:00 京王プラザホテル札幌

〈札幌市中央区北5条西7丁目2-1〉

記念式典 14:00 プラザホール B1階

記念講演 15:00 プラザホール B1階



次世代へのバトン
～アフリカ・アジア開発途上国での医療支援を経験して…～

武井 弥生氏

産婦人科医 北海道大学医学部第58期
元上智大学 総合人間科学部 看護学科 准教授



やれる理由こそが着想を生む。
～はやぶさ式思考法～

川口 淳一郎氏

国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構 (JAXA)
宇宙科学研究所 宇宙飛行工学研究系 特任教授

記念祝賀会 17:30 エミネンスホール 2階

北海道大学医学部 創立100周年記念事業実行委員会 〒060-8638 札幌市北区北15条西7丁目

TEL 011-706-5003 FAX 011-706-7855 <https://www.med.hokudai.ac.jp/100th/>

〈詳細は別途お送りしますご案内状をご覧ください〉



教授退職挨拶



医学教育・国際交流推進センター
大滝 純司 (会員2)

突然ではありましたが、今年の3月31日付で本学を退職いたしました。北海道大学には、以前に北大病院の総合診療部と通算して12年余り勤務させていただきました。遅くなってしまいましたが、退任のご挨拶を申し上げます。

今回の急な退職の理由は、オーバーワークによると思われる健康状態の悪化と、家庭の事情によるものです。2012年に医学研究科医学教育推進センター

(当時)の教授として着任いたしました。諸事情によりずっと単身赴任で、毎週のように自宅のある東京と札幌を往復する、綱渡り的な生活を送っていました。しかし、臨床実習後OSCEの導入など増加する一方の業務、全学の方針を受けてのスタッフの削減、そして昨年の震災対応などにより、次第に体調が悪化し職務を果たすことが困難な状況となり、吉岡医学研究院長をはじめとする執行部の皆様にご相談したうえで、退職を決断いたしました。

今後、医学教育の分野別国際認証を受審する準備を進める大切な時期に本学を離れることになり、誠に残念でしたが、幸い後任に医学教育の先進校で

ある東京医科歯科大学から高橋誠先生が着任されることになり、また医学教育国際交流推進センターの体制も強化していただけることになり、安心いたしました。

在職中は、センターの運営はもとより、クリニカルシミュレーションセンターの概算要求、学外での大規模な臨床実習の導入、そして大学院修士課程での公衆衛生学コースの開始など、多くの貴重な経験をさせていただきました。その一方で、以前に北大病院で勤務していたころから公私ともに密にご指導いただいた法医学の寺沢教授がお亡くなりになられたことが、何よりも辛い思い出となりました。

今年の5月までは札幌に残り、残務整理や引継ぎ、そして引っ越しなどの作業に追われていました。単身赴任が終了し、体調も少しずつ回復してまいりましたので、6月からは、以前に勤務していた東京医科大学での仕事を徐々に始めております。今後は、本学の共用試験OSCEなどの折に引継ぎを兼ねて、非常勤講師としてお手伝いに伺う予定です。

急な退職となったために、これまで色々とお世話になった皆様に、ご挨拶に伺うこともできないまま札幌を離れることになりました。失礼をお詫びするとともに、本学と皆様の今後の益々の発展をお祈り申し上げます。

教授就任のご挨拶



がん遺伝子診断部教授
木下 一郎 (64期)

令和1年7月1日付けで北海道大学病院がん遺伝子診断部の教授を拝命いたしました。私は、昭和63年に北海道大学医学部を卒業し、北海道大学医学部第一内科に入局し、関連病院および同科で研修、研究を行いました。学位取得後、平成9年から4年間、米国国立癌研究所に留学し、がん遺伝子に関する基礎研究を行いました。帰国後は、第一内科で助手、平成16年より腫瘍内科学教室

に異動し、講師、准教授を務めてまいりました。

研究を開始した当初は、数日かけて遺伝子の極一部の配列を読む時代で、新規がん遺伝子発見の報告に目を見張ったものですが、留学中に複雑な分子伝達のシグナルが解明され始め、多数の遺伝子を同時解析する技術革新が始まりました。大学に戻った翌年の平成14年に、肺癌で初めてがん遺伝子を標的にした分子標的薬が承認され、標的のがん遺伝子に変異のある患者の余命が数年単位で延長することを、私達を含む複数のグループが報告しました。現在、世界で承認されたがんの分子標的薬は100に達する勢いで、つい先日は、

がん腫の制限なく、特定のがん遺伝子変異に適応となる分子標的薬も承認されました。

網羅的なゲノム情報に基づいた薬物療法を提供するがんゲノム医療への期待が高まる中、北海道大学病院は2016年4月にがん遺伝子診断部を設置し、多数のがん関連遺伝子を同時解析する遺伝子パネル検査を自費診療として開始しました。2018年2月には、全国11医療機関の一つとして、がんゲノム医療を牽引する「がんゲノム医療中核拠点病院」の指定を受けました。私は、腫瘍内科医として本院のがん遺伝子パネル検査の立ち上げに関わり、2018年9月からはがん遺伝子診断部副部長とし

て、関係診療科・各部門のご協力のもと、先進医療としての遺伝子パネル検査の導入を行い、つい先日保険収載されたがん遺伝子パネル検査の診療開始を進めておりました。

今後はがん遺伝子診断部部長・教授としてがんゲノム医療の発展に力を尽くし、北大病院のがんゲノム医療中核拠点病院としての機能強化を、人材育成、連携病院への診療支援、治験、研究開発によって推進し、より一層世界から注目を集める北大病院、世界をリードする北大病院に貢献していく所存です。関係者をはじめ、同窓会の皆様には、ぜひご指導、ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。



スポーツ医学診療センター教授
近藤 英司 (会員2)

この度、令和元年6月1日に北海道大学病院スポーツ医学診療センターの教授を拝命致しました。ここに謹んで新任のご挨拶を申し上げます。

北大病院では、平成11年に国内ではいち早く「スポーツ診療科(平成15年よりスポーツ医学診療科)」を開設し、国際レベルの診療が行われてきました。そして各診療科の先生方のご尽力により、これまでのスポーツ傷害に対する

診療実績を基盤として、平成25年に本センターが設立されました。センターを運営する機会を与えて頂いた事に深く感謝すると共にその責任の大きさに身が引き締まる思いしております。

私は、平成3年に帝京大学を卒業し、麻酔科にて研修後、平成5年に北大整形外科に入局させて頂きました。関連病院で研修後、平成12年に生体医工学分野に入学し、安田和則名誉教授の指導を受け、靭帯組織の修復機序に関する研究にて学位を取得させて頂きました。大学院卒業後は、英国インペリアルカレッジロンドンに留学させて頂き、スポーツ医学に関する基礎研究に従事しました。平成20年からはスポーツ医学

診療科に勤務させて頂き、平成26年からは整形外科岩崎倫政教授のご尽力により寄附講座スポーツ先端治療開発医学講座に所属し、スポーツ傷害に対する先端的治療の開発に取り組んできました。本センターの使命は、以下の3つと考えております。第1に人々のスポーツ活動が困難となったときにそれぞれが求めるレベルへの復帰を支援する診療を行う事。第2にスポーツ傷害を予防する啓蒙活動を行い、人々のQOLを支援する事。第3にスポーツ医学診療における最先端技術の開発及び普及を行い、スポーツ医学の発展に貢献する事です。研究としては、アスリートのパフォーマンス向上に向けた研究を推進させる

と共に、教育に関しては、各診療科と連携の元、様々なセミナーを開催し、全国からスポーツに関わる医療人材をリクルートし育成するようなセンターにしたいと考えております。これらの活動を通じて北海道大学のブランド力向上に努め、スポーツ医学を通じて北海道の地域医療に貢献したいと考えております。

スポーツ医学の発展のためには、同窓会の諸先生方のご支援ご協力が不可欠でございます。先生方におかれましては、今後ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



医学教育・国際交流推進センター教授
高橋 誠 (会員2)

このたび、令和元年6月1日付で医学教育・国際交流推進センター教授に着任いたしました。ここに謹んで新任のご挨拶を申し上げます。

私は平成4年に東京医科歯科大学医学

部医学科を卒業後、同大整形外科教室に入局し、大学病院ならびに関連施設において研修を行い、平成11年に整形外科専門医を取得しました。また、同大学院で脊椎疾患関連遺伝子に関する研究を行い、平成13年に博士号を取得しました。臨床では、脊椎椎間外科学を専攻し、特に圧迫性脊髄症に対する手術治療および臨床研究に取り組んできました。

この間、大学教員や長野県の諏訪中

央病院整形外科部長として学生や研修医、病院職員の教育に携わる中で、医学教育の面白さと重要性を認識し、平成21年に同大学院臨床医学教育開発学分野に移籍しました。平成22年には、米国ボストンPartners Harvard Medical International (PHMI、現HMI)の教員研修に派遣され、教育成果基盤型教育、診療参加型臨床実習、マイクロティーチングなどの指導法を学ぶ機会を得ました。当時、東京医科歯科大学では、平

成23年開始の医学科新カリキュラムの策定作業が行われており、ハーバードでの経験に基づいて、臨床医学授業のブロック化、卒業時コンピテンシーの策定、臨床実習の改革を担当しました。さらに平成25年には、医学教育分野別評価(国際認証)の受審を担当しました。卒業教育に関しては、同大医学部附属病院臨床教育研修センターを兼任し、同院の臨床研修プログラムの管理運営にあたってきました。平成25年からは

教育・研修担当の病院長補佐、平成26年からは総合教育研修センター長として、臨床研修医にとどまらず病院職員の教育研修にも関わってきました。また、全国的な活動として、臨床研修評

価システムEPOC（エポック）や共用試験評価実施機構のOSCEの開発運営など教育研修の評価に従事してきました。

医学教育分野に進んで10年、平成から令和に改元となった節目の年に、北

海道大学の医学教育を担当する機会をいただき、身の引き締まる思いです。令和3年の医学教育分野別評価（国際認証）受審を控えており、北大の特色を活かし、かつ時代に合った教育を提供

できるよう環境整備に努力する所存です。同窓会の皆様におかれましては、ご支援ご指導を賜りますよう、何卒よろしく願い申し上げます。

春の褒章、叙勲

令和元年春の紫綬褒章を受賞して



東京大学
医学系研究科・教授
はたけやま まさのり
畠山 昌則
(57期)

この度、2019年（令和元年）春の褒章にて、紫綬褒章受賞の栄誉を賜りました。今年で創立100周年を迎えた北海道大学医学部の卒業生でこれまでに紫綬褒章を受賞されたのは、小林博先生（28期;1990年受賞）、松田一郎先生（33期;1999年受賞）、谷口直之先生（43期;2005年受賞）の3名のみで、改めてその重みを実感している次第です。5月30日、

文科省において文科大臣より紫綬褒章が授与された後、皇居にて新天皇陛下の拝謁を賜りました。

今回の褒賞は、分子腫瘍学・感染腫瘍学の研究を通して、基礎医学研究の進展と若手研究者の育成への貢献に対して与えられたものです。とりわけ、ピロリ感染を基盤とする胃がん発症機構の分子生物学的研究から、ピロリ菌産生タンパク質の一つがユニークな発がん活性を示すことを明らかにした点が高く評価されました。これは、細菌が“がんウイルス”と同様の発がんタンパク質を持つことを世界で初めて示したものです。この細菌由来がんタンパク質はピロリ菌が保有する注射針様装

置によりヒトの胃上皮細胞内に直接注入された後、あたかも「トロイの木馬」のごとく働き、増殖・分化に関わる重要な細胞内シグナル分子の働きを次々と障害・攪乱することで胃がんの発症を促します。この研究の鍵となる発見（Science, 2002; Nature, 2007）は、私が北海道大学遺伝子制御研究所に在籍していた期間（1999-2009年）に得られたもので、母校でこのような成果を生み出したことは私の大きな誇りです。2009年に東京大学異動後は、X線結晶構造解析による立体構造の解明を通してピロリ菌がんタンパク質による発がん分子機構をナノスケールの世界で解明する研究を進めるとともに、様々な遺伝子

改変マウスの作成と解析から個体レベルでの胃がん発症プロセスの時空間的理解にも大きな進展が得られています。

申し上げるまでもありませんが、今回の受賞は決して私一人の力で成し得た訳ではなく、数多くのスタッフ、大学院生、共同研究者が日夜・週末を問わず積み上げてくれた膨大な実験データの賜物です。共に研究を進めてくれた関係の皆様がこの場を借りて心より感謝の意を表しますとともに、常に暖かい激励とご支援を賜りました北大医学部同窓の先生方に厚く御礼を申し上げます。

瑞宝小綬章の栄に浴して



元網走厚生病院長
ふしなが あきら
藤永 明
(52期)

令和元年5月24日、午前中厚生労働省にて叙勲の伝達式が行われ、その後皇居春秋の間にて新天皇に拝謁、お言葉を賜りました。受章者は全員勲章を着用し、前方列に受章者、後方に配偶者の位置取りでした。総勢800名ほどだったと思います。厳粛な中に気品ある清明なお声で、一部しか記憶にありませんが、“国民のために尽力されたこ

とに感謝いたします”と言われたような気がいたします。平成23年に農協功労賞、平成27年に北海道社会貢献賞をいただきましたが、その時は農協・農業の発展に寄与したとか、道民のために尽力したとかの文言でしたが、初めて“国民のために”という言葉、それも天皇から頂き、万感胸に迫る思いがいたしました。

平成15年4月に網走厚生病院の院長に任命され着任いたしました。地域医療を実践するという緊張感と、後に引けないという責任感でいっぱいでした。人々がその土地に住み続けるには、教育と医療が必要です。教育がなければ子供たち、その若い親たちが住み続け

ることが出来ない。医療がなければ、安心してその土地に住み続けることが出来ない。網走厚生病院は斜網地区の中核病院としてその責任を果たさなければならない、と考えていました。病院の理念の中に一部取り入れ、職員への訓話の中で毎回そのことを発し続けました。

時は、医療機能評価制度、新臨床研修制度、DPC制度、7対1看護体制、等の荒波に巻き込まれた時でした。先を見通して平成18年2月に完成したはずの新病院は、まもなく医師不足、看護師不足に翻弄され、十分活用出来ずに至りました。また、病院運営のみならず、網走市をはじめとする斜網地区、1市4

町の2次救急問題、網走市内の1次救急問題の混乱が喫緊の課題でした。中核病院の院長として、行政、消防、地域住民を巻き込んだ問題提起とその解決に多大な労力を必要としましたが、現在無事に運営されていることに安堵しております。

13年間の網走生活で、医療崩壊と言われながらも多くの若い先生方と地域医療に励むことが出来ました。大学各医局からも多大なご支援をいただきました。他の医療仲間も含め、その代表として今回の叙勲に至ったと思います、感謝の念でいっぱいでありませ

瑞宝双光章拝受



北海道警察嘱託医
ほし の え
堀江 洋三
(44期)

令和元年春の叙勲に際し、計らずも瑞宝双光章拝受の栄に浴しました。このことに関しまして経緯等について、紙面をお借り致したいと存じます。

天皇陛下の国事行為の一つに、栄典を授与する行為がございますが、現憲法下の栄典には位階、勲章、褒章がございます。因みに位階は本人死亡の時

のみに贈られるものです。また、勲章は生涯を通じての功績を総合的に判断して授与されますが、褒章は特定の表彰されるべき事蹟があれば、その都度、表彰されます。

勲章の種類には菊花章、桐花章、文化勲章の他に、旭日章、瑞宝章が各6種類ございますが、私が拝受致しました瑞宝双光章は、公務等に長年に渡り従事し、成績を挙げた者に与えられる勲章だそうです。私の場合は、北海道警察嘱託医としての30年余の実績が、認められたのでしょう。

さて私は昭和43年3月に北海道大学医学部医学科を卒業し、直ちに北大第1外

科に入局させて頂きましたが、同時に晴れてフラテの会員となりました。その後、大学と関連病院で研鑽を積み、昭和60年秋、札幌市厚別区で有床診療所を開設致しました。それからは、救急医療と医師会活動に明け暮れる毎日でした。

そんな折、勤める人があり、警察医を拝命致しました。留置人の健康管理、職員の健診は定期的であり、臨床医として困難は感じませんでした。問題は検案業務でございました。昼夜を問わず、吹雪でも嵐でも現場に駆けつけ、既存のデータが皆無の状態、誤診の恐怖に脅えながら、死因と死亡時刻を

迅速且つ的確に判断せねばなりません。また、大災害の折には管轄を超えて現場に出向する事もございます。この事は、私独りの事ではございません。道内の150余名の警察医は皆、心意気で頑張っております。そうした意味でも私の受章は、全道警察医の代表として頂いたものと考えております。偶々、私が古参で会長であるが為に…。

去る5月29日、伝達式の後、初めて皇居に参内し、春秋の間、にて新天皇陛下に拝謁を致しました。今後もフラテの名を辱めぬよう、精進する心構えでございませ

旭日双光章を受章して



元宗谷医師会会長
よた しんいち
横田 慎一
(39期)

このたび、令和元年春の叙勲にあたり、旭日双光章を受章いたしました。このことは、先輩をはじめ皆様のご指導、ご協力のお蔭と大変感激いたして

おります。

私は、昭和38年卒、43年学位取得後、3年余りの助手生活を経て、市立稚内病院内科勤務、昭和51年12月より現在地において、有床内科診療所を開業、現在に至っております。

当時の稚内は、人口約5万8千人、市長は10万人を目標とする公約にもうたっておりまして。市立病院の医師の数も、北大各医局との連携もあり、現在程問題となることはなかった感じで

した。ところが、昭和52年200カイリ設定後は急激な人口減少、漁業の衰退により、現在人口は3万5千を下回り、シャッターを下ろしている店もあちこちに見受けられます。

この様な状況の続く中、5年前私は左ソケイヘルニアを発症し、市立稚内病院外科にて手術を受けました。この年、それ以前は毎年続けておりました、癌を念頭においた簡易検査を実施せず、翌年自覚症状まったくなく、軽い

気持ちで行なった処、胸部レ線右上肺野に異常陰影があり、腫瘍マーカーも軽度の上昇もみられました。

市立稚内病院、北大腫瘍内科を経て、北大呼吸器外科で肺癌の診断のもと手術を受けました。

幸い半年毎の経過観察で、現在のところ再発はみられないとのことで、このまま経過観察を指示されております。

当地で、50年にもなりますと、友人、知人も数多く出来ました。また、閉院

を決意した時も、古くからの患者さんから翻意を迫られました。激励の言葉も数多くいただきました。

しかし、私は、万全でない体調の下で診療を続けることは経験上からも、患者さん、私の双方にとって最善では

ないとの結論に達しました。今後についてはもう少し考えたいと思っております。

これまでのご指導誠にありがとうございました。

新世紀の医学に向けて (36) 臨床遺伝診療～今までとこれから

北海道大学病院臨床遺伝子診療部 部長
北海道大学大学院医学研究院神経病態学講座神経内科学 准教授
矢部 一郎 (67期)



20XX年、そう遠くない未来の北大病院。患者Aさんは初診受付の後、まず認定遺伝カウンセラーを兼ねるゲノムコーディネーターと面談する。網羅的全ゲノム解析を行うことに同意した後、数ccの採血が行われる。その血液は、次世代シーケンサーが更に進化した近未来シーケンサーによって、イントロンも含めた全ゲノム解析がなされる。30分後には解析が終了し、AIによって初期解釈されたデータをもとに、バイオインフォマティクスが詳細な解釈を加える。採血から1時間後、Aさんが主治医の前に呼ばれた時には、全ゲノム解析によって明らかとなった、罹患している可能性の高い疾患名一覧とその臨床的特徴、副作用が現れる可能性が高い禁忌薬剤リスト、が電子カルテ上に掲載されている…

幾分、私の誇大妄想が入っているかもしれないが、このような臨床遺伝医療が現実的になりつつある。本稿では、今日に至るまでの臨床遺伝診療を振り返るとともに、これからの臨床遺伝診療について考察する。

①今までの臨床遺伝診療

臨床遺伝学とは、遺伝医学のあらゆる分野で得られた科学的知見や情報を、日々の診療に活かす領域です。遺伝医学は、1865年にメンデルによって遺伝法則が発見されたことに始まり、1956年にはヒトの染色体が46本であることが報告され、これをきっかけに、小児領域の染色体疾患や遺伝性疾患において染色体診断が用いられるようになったことから臨床遺伝診療は始まりました。さらに1967年に世界初の羊水染色体検査が報告され、周産期領域でも臨床遺伝診療が実施されるに至りました。

その後、神経疾患や遺伝性腫瘍等の単一遺伝性疾患の原因遺伝子が次々と解明され、2003年には約15年の年月を要したヒトゲノムプロジェクトが終了し、ヒトの全ゲノム塩基配列が解明されました。これにより頻度が高い遺伝性疾患の大部分は原因究明に至りましたが、一般診療の中で遺伝性疾患を診療する機会は少なく、臨床遺伝診療＝稀少疾患、というイメージを持つ医療者も多かったものと予測します。しかし2000年代半ばに次世代シーケンサーが登場して以降、状況は大きく変化しました。

②次世代シーケンサーが起こしたパラダイムシフト

次世代シーケンサーの登場により、膨大な塩基配列の解読が劇的に速く、かつ低コストで実施できるようになりました。これにより、これまで行われてきた臨床症状から疑われる疾患を絞り込み、候補となる原因遺伝子を順に解析するのではなく、一度の解析で大量の遺伝情報を同時に読み取ることが可能となり、この技術を利用した新しい臨床遺伝診療が始まりました。例えば、長年原因不明だった未診断疾患患者を対象に網羅的遺伝子解析を行い、未知の原因遺伝子を特定するプロジェクト(通称TRUD)がAMEDにより主導され、各地方の拠点病院を中心として全国で実施されています。また、腫瘍細胞のゲノム情報を網羅的に解析し、特定の遺伝子を標的とした薬剤を選択するがんゲノム医療が開始されています。2018年2月には、北大病院を含む11箇所のがんゲノム医療中核拠点病院が指定され、2019年6月には、2種類の網羅的がん遺伝子検査システムが保険収載されました。加えて遺伝性疾患の研究から孤発性疾患の原因究明や治療薬

の開発もなされています(例：大理石骨病研究から見出された骨粗鬆症治療薬デノスマブや遺伝性腎性糖尿病研究からの糖尿病治療薬SGLT2阻害薬)。2015年には内閣官房健康・医療戦略推進本部の下にゲノム医療実現推進協議会が設置され、感染症、糖尿病、循環器疾患等、いわゆるcommon disease領域や私自身の専門分野である認知症や神経疾患等の領域においても国家プロジェクトとしてゲノム医療を推進する方針が明示されています。次世代シーケンサーは、臨床遺伝診療を遺伝性疾患の診療のみならず、個々の遺伝情報に合わせ個別化医療を提供する診療への転換、すなわち“ゲノムファースト”時代の到来という大きなパラダイムシフトをもたらしました。

③これからの臨床遺伝診療と遺伝リテラシーの向上にむけて

“ゲノムファースト”時代を迎え、2016年度には医学教育モデルコアカリキュ

ラムに、遺伝医療・ゲノム医療という項目が追加されました。すなわち、これから医師を目指す者は、臨床遺伝診療に対応する能力を有することが必須条件となったわけです。疾患の発症には遺伝要因と環境要因が関与するわけですが、今後はそれらに加味して時間的要因を考慮する必要があります(図)。時間的要因を十分に認識して、より早期に医療介入をすることは根治療法に直結する可能性があり、そしてこのような医療の進歩は、臨床遺伝領域の究極の目標である個性および多様性を受け入れる社会の実現に向けての大きな一歩となります。

20XX年の北大病院において、冒頭で示したような臨床遺伝診療が円滑に行われるように、北大病院臨床遺伝子診療部は北大における臨床遺伝診療、研究、教育の各領域において貢献し、医療人を含めた社会の遺伝リテラシーの向上を目指して啓蒙活動を継続していきたいと考えています。

遺伝、環境、時間的要因を考慮した疾患発症モデル



2019年医師国家試験の北大生合格状況について

前教務委員会委員長 医学研究院精神医学教室
久住 一郎 (60期)

2019年2月9、10日に実施された第113回医師国家試験(以下、国試)の合格者が同年3月18日に発表されて、新卒と既卒を合わせた全体の全国平均合格率は前年比1.1%減の89.0%で、過去10年間で2番目に低い数字となりました。その中で、北大生は新卒96.2%(全国18位)、既卒45.0%(同63位)、全体88.0%(同59位)の合格率となり、全体は全国平均を下回ったものの、新卒については4年ぶりに全国平均を大幅に上回りました。昨年の新卒の合格率が89.5%(全国68位)であったことを考えると、実にランクで50位、合格率で6.7%上昇という健闘ぶりでした。

北大の合格率は、第110回国試(2016年)から、新卒・全体とも全国平均を下回るようになり、特に第112回国試(2018年)までの3年間の新卒の不合格者は、9名、12名、14名と年々増加し、順位も全国80大学中70位前後に低迷していました。このような危機的状況に対して、教務委員会では2018年春から本格的な対策に乗り出しました。長期的対策として教養科目未修得者の2年次留め置きや留年者・成績不良者へのチューター配置、中期的対策として4年次CBT合格基準の引き上げや3~4年次臨床科目試験・5年次全科臨床試験の厳格化、短期的対策として6年次成績不良

者へのチューター配置、テコム模擬試験の受験料サポートやテコム出張講義の受講料サポートなどを実施しました。これらの対策全ての効果が現れるまでにはまだ相当の時間がかかると思われますので、2019年の国試成績を見て安心するのはまだ早計であると考えます。ただ、教官がわざわざ北大生に国試対策をする必要はないという、これまでの伝統的な考え方を一転させたことは、元々優秀ではあるものの、国試に対して比較のおおらかに構えていた北大生の意識を少々変えた可能性はあったかもしれません。しかし、これらの対策は在学生に対してのみですので、今後

は既卒学生に対してもサポートを広げていくことが課題です。卒業後は教務委員会からの連絡が困難になる場合も少なくなく、国試発表後に早めに連絡手段の確保を工夫していく必要があります。

最後に、今後の国試受験者のために、テコム担当者から聞いた効果的な対策について触れておきます。昨今は、ネット講座を受講して勉強する学生が増えています。なによりもまず早めに着手することが大切です。1巡目は少なくとも5年次までに終わることが望ましいようです。最近の国試問題は、卒後研修医レベルを意識した実践的な内容が

増えているため、5,6年次の診療参加型臨床実習も非常に役に立つといえます。これらの実習と並行して2巡目は6年次夏までに終了し、残り期間には弱点を補強しながら3巡目を終えることが目標になります。6年次に受験する模擬試験

は、終了後の復習や複数回の見直しが大切です。また、一般問題と必須問題の勉強の仕方や解き方が異なるので、それぞれまとめて集中的に学習することが望ましいとのこと。また、最近の北大生はグループ学習をしなく

なっているとされていますが、ネット講座を基本にしながらも、わからないことをお互いに教え合うことは、周りの受験勉強の進捗に刺激を受けて動機付けができてやすいため、グループによる学習は効果が高いようです。

これまで講じてきた対策が実って、今後も北大の新卒・既卒生ともに安定した国試合格率が維持されることを願ってやみません。受験生の健闘をお祈りいたします。

第113回医師国家試験の新卒の合格者数一覧

(医学部を持つ大学・医科大学、計80校分を集計。新卒の受験者数に対する合格者の割合が多い順にランキングを作成。同率の場合は、「合格者数」が多い順に掲載)

Table with columns: 順位(合格率), 学校名, 出願者数, 受験者数(A), 合格者数, 2019年合格率, 2018年合格率, 前年との合格率差, 2013年入学時定員(B), (A)÷(B)%. Lists 40 universities including 自治医科大学, 順天堂大学, etc.

Table with columns: 順位(合格率), 学校名, 出願者数, 受験者数(A), 合格者数, 2019年合格率, 2018年合格率, 前年との合格率差, 2013年入学時定員(B), (A)÷(B)%. Lists 40 universities including 東邦大学, 千葉大学, etc.

(m3記事から引用)

祝・スキー部東医体15連覇



北海道大学 医学部学友会 スキー部 主将 関 宏樹 (96期)

北海道大学医学部学友会スキー部(以下、スキー部)は、2019年3月5日～10日に秋田県田沢湖で開催された第61回東日本医科学学生総合体育大会(以下、東医体)において、男子総合15連覇を成し遂げました。これは、スキー部が第18回東医体で打ち立てた男子総合14連覇の記録を43年の時を経て更新するものであり、私たち現役部員だけでな

く、多くのスキー部OB・OGの先生方にも大変喜んでいただきました。東医体のスキー競技には、アルペン部門とクロスカントリー部門の2部門があり、部員はいずれかの部門で日々練習を重ねています。アルペン競技としてGS(大回転)、SG(スーパー大回転)、SL(回転)があり、クロスカントリー競技として15km、8km、スプリント(オープン競技)、リレーがあります。これらの競技を個人で競うだけでなく、それぞれの1位から30位に46点～1点の点数が割り振られており、各大学がその合計点で競い、男女の総合優勝が決まります。

スキーという競技柄、北大に利があると思われる方も多いと思いますが、スキー部の部員の半分以上は道外出身であり、大学に入るまでスキー未経験の部員も多くいます。雪が早く降る点では、確かに関東の大学に比べ有利ではあるといえますが、それは道内の他大学や東北地方の大学にも言えることです。実際、道内3大学や東北地方の大学の上位争いは熾烈であり、そういった争いの中、毎年部員が入れ替わりながらも15年間王座を守り続けてきました。この15連覇の最初の1勝となったのは、北大が主幹を務めた第47回東医体でした。開催地は北海道、その中でもスキー観光地として有名なニセコで行われました。主幹を務め、地元で行わ

れた特別な意味を持った東医体。部員に課せられた使命は絶対総合優勝であり、少しでも現地慣れしようと足しげくニセコに通いました。結果は、全種目で全大学中最も多く点数を稼ぎ、2位と319点差の807点で男子総合優勝を6年ぶりに勝ち取りました。しかし、この結果に対し、「開催地がニセコであり、地の利があったのではないかと」囁かれることもありました。そういった噂のある中で迎えた秋田県田沢湖での第48回東医体は完全アウェイでの戦いでしたが、この年の勝利が北大の強さが本物であると他大学に知らしめることとなりました。その後、第49～51回東医体も2位と300点以上の差をつけて、危なげなく連覇を重ねて5連覇を成し遂げます。第52

回東医体（開催地：秋田県田沢湖）からは東北大学が徐々に実力を上げ、8連覇のかかった第54回東医体（開催地：長野県志賀高原）では、総合優勝争いが個人の最終競技であるSLまで纏れ込みました。SL前日まで、北大は17点差をつけられており、総合優勝のためにSLで逆転しなければならない状態でした。そういったプレッシャーの中、吉川剛平先生（89期）がSLで優勝し、大饗哲朗先生（88期）、石井健一先生（89期）、北潟谷隆先生（88期）が得点を重ね、31.5点差で首位に立ちました。最終的にはリレーで敗れ、3点詰められました。28.5点差で8連覇を果たしました。

その後も東北大学が猛威を振るい、

第55回東医体（開催地：長野県菅平高原）では、クロスカントリーで136点差をつけられるもアルペンで巻き返して9連覇を成し遂げ、北大の部員数の少なかった第56回東医体（開催地：夕張市）では、36点差の接戦を制して10連覇を果たしました。第57回東医体（開催地：長野県菅平高原）以降、北大は2位の大学との点差を年々上げながら連覇を重ねます。そして第60回東医体（開催地：長野県菅平高原）の男子総合優勝をもって、スキー部史上最多の14連覇に並びました。15連覇のかかった第61回東医体（開催地：秋田県田沢湖）は、この連覇の最初の1勝となった第47回東医体と同様、全種目で全大学中最も多く得

点し、完全勝利という形でスキー部史上初となる男子総合15連覇を果たしました。

15連覇の喜びをOB、OGの先生方とも分かち合うため、5月にホテル札幌ガーデンパレスにて祝賀会が行われました。会には平野聡先生（部長・64期）、國分一郎先生（OB会長・58期）、太田俊郎先生（前OB会長・50期）、石垣一之先生（44期）をはじめ、連覇の1勝目となった東医体で15km、8kmの二冠を果たした広瀬淳史先生（82期）、5連覇、8連覇、10連覇、11連覇時の主将を務めた宜保憲明先生（86期）、清水寛和先生（89期）、吉村一樹先生（91期）、越智達哉先生（92期）の他、15連覇の中で現役部員と

して過ごされた先生方など計28人の先生方が出席されました。会の中で第61回東医体の結果報告や15連覇の軌跡の振り返りなどをつつ、OB、OGの先生方と現役部員とで祝いの美酒を酌み交わしました。

来年以降の東医体も連覇記録の更新がかかってきます。部員一同、一つでも連覇を伸ばせるよう努力しております。どうぞご声援のほどよろしくお願い致します。

なお、東医体の結果詳細につきましてはスキー部HP (<http://ullr-ski.net/>) をご覧下さい。

医学部医学科公認サークル紹介シリーズ 第1回

アンサンブル・フラテ

医学科3年
なかだ ゆうた
中駄 勇太

アンサンブル・フラテは、北海道大学医学部学生を中心とする室内楽アンサンブルです。「音楽を通じた社会貢献」を目標とし、北海道大学病院や天使病院での入院患者の皆様向けのボランティアコンサートを中心に活動しています。日々病気と闘う患者の皆様を、音楽の力を通じて少しでも慰め、励まし、元気になってもらいたいという思いで演奏活動を行っています。

また最近では、北海道大学近くにある「ふきのとう子ども図書館」にて、児童向けのボランティアコンサートを行っています。図書館には、乳幼児から小学生まで様々な年代の子どもたちが訪れていますが、そうした小さな子どもたちにも、日本の童謡やクラシック音楽の魅力、様々な楽器の音色を伝えていきたいと願っています。その他にも、同じく北大近くの高齢者住宅施

設「支心」を訪問し入居者・利用者向けのコンサートを行うなど、病院以外の場にも活動を広げています。

こうした病院や各種施設での演奏活動に加え、春には学内のホールにて医学部の方や一般の方向けのコンサートを、秋には学外にて一般の方向けのチャリティコンサートを開催し、人に伝え

ることのできる演奏を目指して皆で練習に励んでいます。チャリティコンサートでは、いただいたチケット代金と寄付金を、公共のために全額寄付しています。一例として、昨年2018年度のチャリティコンサートでは、先の北海道胆振東部地震で大きな被害を受けた安平町に全額寄付いたしました。

ちなみに、アンサンブル・フラテは2014年度より「医学生有志によるアンサンブル」として活動を開始し、2016年度より医学科公認団体として正式に

設立されました。現在の部員は、北海道大学医学部、歯学部、薬学部等の学生25名ほどです。ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、フルート、オーボエ、クラリネット、ホルン、歌、ピアノなど様々な楽器を演奏するメンバーとともに演奏活動に励んでいます。これからも、「音楽を通じて、人のために何が出来るか」を考え、さらに活動の幅を広げていけたらと考えています。

(部員医学部医学科36名、その他26名)



北大医学部漕艇部

医学科4年
さくま ともや
佐久間 智也

競技としてのボートは日本ではまだマイナーだと思います。ヨーロッパなどではメジャースポーツでオリンピック種目でもあり、イギリスでは「紳士のスポーツ」と言われていたりします。イメージがわかりやすいように写真で示すと下図です。

ボートほど過酷な競技はなかなかないと思います。ボートとは簡単に言えば一番速くゴールについた人が勝ちという競技です。夏の東医体でも一試合せいぜい4分足らずで終わります。その4分足らずのために一年間、水上での練習、ウェイトトレーニング、けが予防の体幹トレーニング、栄養バランスのとれた食生活、そういったことすべてをきっちり休むことなく続けなければなりません。これが過酷なスポーツで

ないわけがありません。ただその代わりボートはやったこと



はそのまま如実に結果として出てくれます。そんなにセンスがなくて一生懸命努力して、精一杯漕げば一番にだってなれるのです。自分の努力がしっかり結果と現れる、とても美しいスポーツだと思います。そんなボートが、そ

して一緒に頑張る北大医学部ボート部が大好きです。

(部員医学部医学科21名、その他26名)

創立100周年を「獅子の会」も応援

医学部を卒業して25年が経った平成5年(1993年)4月に、44期生の同期会を強化しようという呼びかけのもと「北大医学部獅子の会」が結成された。役員として新富(会長、形成)、石垣(副会長、整形)、中村(副会長、病理)、山本(幹事、内科)が選出され、44期生の親睦と北大医学部の発展を応援するための地道な活動を申し合わせた。会費は本家の同窓会費とは別に年額5,000円とし、中村が事務局を担当して、まずは卒業30周年(1998年、札幌)の同期会開催を成功させるべく発足した。

そして北大125周年(2001年)には「獅子の会(44期会)」として初めてまとま

た寄附(30万円)を行った。

その後卒業35周年(2003年、札幌)、40周年(2008年、札幌)、42周年(2010年、沖縄)、43周年(2011年、支笏湖)、44周年(2012年、札幌)、45周年(2013年、東京)、46周年(2014年、京都)、47周年(2015年、旭川)、48周年(2016年、札幌)、49周年(2017年、余市)、50周年(2018年、札幌)と近年は同期会を毎年開催してきた。

この間に2009年には北大医学部創立90周年の記念事業があったのであるが「何で90周年だ? 100周年まで待つべきだ」という意見が強く、獅子の会としてまとまった金額は得られなかった。

それでも一人で100万円寄附した人がいて、「もう少しがんばるべきだったかな」という思いは残った。

そして事務局の都合で4年間徴収が滞った会費を2017年に一挙に集める際に、2万円のうち1万円を100周年記念事業に充てることを提案し、70名近い賛同を得た。しかし、それだけでは医学部の事業遂行目標に程遠いことは自明であった。幹事会で検討し、2018年4月に再度1口20万円で寄附を呼びかける際に、20万円は無理でも1~数万円の追加でも可とし、寄附先は北大フロンティア基金へ直接または獅子の会事務局(振替)のどちらでも受け付けた。

その結果、獅子の会からの549万円を含めて44期からの寄附額は1,265万円、寄附率は91%となった。今後も約100万円の追加がある予定である。

中村仁志夫(44期)



【写真】幹事会近影
前列(左より)新富、中村 後列(左より)石垣、山本

同窓生から創立100周年に寄せて ~医学部100年の歴史を振り返る~

北海道大学医学部100周年記念事業WEBサイト (<https://www.med.hokudai.ac.jp/100th/>) のTOPページのアニメーションに使用している画像は、大石 悠一郎先生(83期)より作成いただいたものです。今回は、その制作に込められた思いをご紹介します。



医学部創立100周年に際しまして

北大医学部の歴史の一コマ一コマを医学部正面の壁面に映し込みました
100年という長い期間に、我が国はいくつもの時代の局面を迎え、そして乗り越えてまいりました
歴史に残る輝かしい業績を残された先輩方
そして歴史に名を残すことなくとも北海道と我が国の未来のために地道に尽力された先輩方
彼らの営みが100年という長い時間を積み重ねることで現在の我々があるということを表示しました
モザイク状の空は虹を表現しております
虹を構成する色はそれぞれに個性的で、そして互いに交わることはありません
しかし、色が交わらないからこそ互いの個性を尊重し、引き立てあいます
数々の個性的な人材を輩出したことをこれで表現しました
そして虹は橋を連想させます
時代を超えて過去から未来へと北海道、日本、そして世界を支え続けていきたいという願いが込められています

大石 悠一郎(83期)

北海道大学医学部創立100周年記念オリジナルアイテム第2弾 医学部100周年記念切手シート(医学部100周年オリジナルクリアファイル付き)1,600円

北海道大学医学部創立100周年を記念して、オリジナル切手シートを作成しました。



記念切手シートの構成

- ① 今 裕
(第4代 北海道帝国大学総長(昭和12年~20年)
第2代 医学部部長(大正4年~昭和4年))
廣重 力
(第14代 北海道大学総長(平成3年~7年)
第28代 医学部部長(昭和62年~平成3年))
(北海道大学 大学文書館所蔵)
- ② 医学部管理棟
- ③ 開学当初の南講堂(北海道大学 大学文書館所蔵)
- ④ 北海道大学病院 陽子線治療センター 治療室
- ⑤ 北海道大学病院
- ⑥ 医学部附属病院本館(北海道大学 大学文書館所蔵)
- ⑦ 北13条イチョウ並木
- ⑧ 北海道大学医学部シンボルマーク
- ⑨ 日本初の遺伝子治療(1995年)
- ⑩ 臨床医学教員の似顔絵「北大医学部50年史より」
(大正10年~昭和42年在籍)

記念切手シート以外にも、記念切手シート用アクリルフレーム、ゴルフボール、ソメスサドル製のトートバッグ、医学部オリジナルネクタイ、医学部オリジナル和盆、医学部100周年BOOK型パッケージきのとや札幌農学校クッキーなどを販売しております。北海道大学医学部は創立100周年を迎え、ご贈答や記念品、コレクションとしてお楽しみいただけるような記念グッズをご用意いたしました。

記念グッズは、北海道大学医学部創立100周年オリジナルグッズオンラインショップ(<https://www.hokudaigoods.com/>)または北大生協医学部食堂購買部、エルムの森ショップ、北大病院ローソンにて販売しております。本学を訪れた際にも是非ご利用ください。※店頭では一部取扱いのない商品もございます。
【お問い合わせ】
北大グッズ受注センター
フリーダイヤル 0120-065-638
[営業時間]
平日 10:00~17:00(定休日:土・日・祝日)

北海道大学医学部創立100周年記念事業募金へのご協力のお願い

医学部創立100周年記念事業基金は、平成28年4月の設置から約3年が経過しました。この間、浅香正博記念事業後援会会長と医学部執行部教員が中心となり、現医学部教員はもとより医学部同窓会会員の皆様や道内外の医療関係企業にも寄附の要請を展開してまいりました。

しかしながら、平成31年3月現在の寄附総額は約4億円で、依然として目標全体金額の10億円には遠く及ばない状況にあります。

「北海道大学医学部百年記念館」は今年9月の竣工を予定しております。また、医学部生への奨学支援を目的とした「北海道大学医学部教育研究基金」の創設は、国内のみならず世界をリードする教育・研究機関としてより豊かな人材を育成するためにも必要不可欠な取り組みであると認識しております。

ご寄附いただいた皆様には、北海道大学医学部の教育研究にご貢献いただいたことを末永く記録に留めるため、寄附総額に応じた銘板にご芳名を刻印し、北海道大学医学部百年記念館へ掲

示させていただく予定です。

趣意書につきましては、以下の方法でも取得いただけます。

①ウェブサイトからのダウンロード
北海道大学医学部創立100周年記念事業ウェブサイト
(<https://www.med.hokudai.ac.jp/100th/>)
からダウンロードいただけます

②メールまたはお電話によるご請求
医学部事務部総務課庶務担当
(E-mail: shomu@med.hokudai.ac.jp)
電話: 011-706-5085
までご連絡ください。趣意書を郵送にてお送りいたします。

また、クレジットカード決済によるご寄附のお申し込みについては、北大フロンティア基金ホームページ「寄附申し込みフォーム」からお手続きいただけます。

(<https://www.hokudai.ac.jp/fund/projects/detail.html#fund10>)

北海道大学医学部創立100周年記念事業実行委員会
募金活動小委員会委員長 吉岡 充弘

(問い合わせ先)

北海道大学医学部事務部総務課庶務担当
TEL/FAX: 011-706-5085/011-717-5286
E-mail: shomu@med.hokudai.ac.jp

スマートフォンからの申込みも可能です。QRコードもご利用いただけます。



北海道大学医学部百年記念館に掲示する銘板の種類

種別	寄附総額		銘板
	個人	法人・団体	
プラテダイヤモンド功労賞	1,000万円以上	3,000万円以上	ゴールド(大サイズ)(縦150mm×横150mm)
プラテゴールド功労賞	500万円以上	1,000万円以上	ゴールド(縦70mm×横120mm)
プラテシルバー功労賞	100万円以上	500万円以上	シルバー(縦50mm×横100mm)
プラテブロンズ功労賞	20万円以上	100万円以上	ブロンズ(縦25mm×横100mm)

寄附金納入状況

2019年7月31日現在

寄附金合計 **452,750,447円**

○教員	213件	44,180,000円
○医学部卒業生	583件	202,868,352円
○病院・企業等	128件	150,200,000円
○その他(講座・同門会等)	4件	19,803,636円
○その他(同期会)	6件	14,798,459円
○その他(個人・団体)	81件	20,900,000円

同窓会卒業期別寄附状況

2019年7月31日現在

卒業期	全体数	個人		同期会 件数	寄附金額 (単位:円)
		寄附者数	寄附率		
18期	1	0	0%	0	0
19期	1	1	100%	0	100,000
20期	2	0	0%	0	0
21期	2	0	0%	0	0
22期	4	0	0%	0	0
23期	7	1	14%	0	200,000
24期	5	1	20%	0	1,000,000
25期	15	2	13%	1	658,430
26期	6	0	0%	0	0
27期	10	3	30%	0	620,000
28期	19	9	47%	0	2,950,000
29期	21	6	29%	0	1,510,000
30期	36	10	28%	0	2,350,000
31期	21	2	10%	1	845,029
32期	27	5	19%	0	325,000
33期	35	7	20%	0	3,500,000
34期	45	6	13%	0	1,950,000
35期	50	26	52%	0	18,700,000
36期	48	8	17%	0	2,750,000
37期	56	31	55%	0	6,910,000
38期	54	10	19%	0	2,120,000
39期	54	17	31%	0	6,700,000
40期	53	16	30%	0	6,002,000
41期	65	25	38%	1	15,450,000
42期	65	48	74%	1	5,345,000
43期	53	16	30%	0	8,940,000
44期	79	73	92%	1	12,750,000
45期	62	13	21%	0	3,280,000
46期	79	52	66%	19	13,460,000
47期	78	11	14%	0	7,700,000
48期	73	16	22%	0	18,713,636
49期	92	8	9%	0	11,070,000

卒業期	全体数	個人		同期会 件数	寄附金額 (単位:円)
		寄附者数	寄附率		
50期	89	9	10%	0	4,920,000
51期	101	10	10%	0	3,900,000
52期	86	7	8%	0	2,300,000
53期	80	9	11%	0	1,950,000
54期	102	11	11%	0	7,510,000
55期	108	23	21%	0	10,320,000
56期	104	15	14%	0	3,460,000
57期	124	22	18%	0	5,300,000
58期	96	13	14%	0	3,800,000
59期	122	10	8%	0	2,370,000
60期	116	30	26%	0	9,040,000
61期	100	13	13%	0	2,891,000
62期	115	6	5%	0	950,000
63期	102	7	7%	0	1,320,000
64期	114	16	14%	0	3,479,352
65期	115	12	10%	0	3,510,000
66期	114	15	13%	0	3,350,000
67期	106	28	26%	0	3,520,000
68期	101	9	9%	0	20,840,000
69期	107	10	9%	0	1,840,000
70期	94	7	7%	0	1,060,000
71期	89	7	8%	0	2,110,000
72期	80	8	10%	0	872,000
73期	82	11	13%	0	1,255,000
74期	82	10	12%	0	960,000
75期	81	10	12%	0	1,370,000
76期	74	7	9%	0	720,000
77期	67	1	1%	0	50,000
78期	74	10	14%	0	1,300,000
79期	83	8	10%	0	760,000
80期	85	4	5%	0	550,000
81期	63	7	11%	0	1,100,000

卒業期	全体数	個人		同期会 件数	寄附金額 (単位:円)
		寄附者数	寄附率		
82期	64	3	5%	0	500,000
83期	67	6	9%	0	504,000
84期	67	8	12%	0	560,000
85期	65	1	2%	0	50,000
86期	64	1	2%	0	20,000
87期	58	0	0%	0	0
88期	58	1	2%	0	50,000
89期	78	2	3%	0	250,000
90期	66	0	0%	0	0
91期	94	0	0%	0	0
92期	82	2	2%	0	110,000
93期	79	1	1%	0	20,000
94期	86	1	1%	0	10,000
会員(2)	168	26	15%	0	12,310,000
専1	0	0	0%	0	0
専2	2	0	0%	0	0
専3	3	0	0%	0	0
専4	1	1	100%	0	120,000
専5	12	3	25%	0	920,000
専6旧	21	2	10%	0	300,000
専6新	4	0	0%	0	0
専7旧	25	1	4%	0	100,000
専7新	15	1	7%	0	1,000,000
樺太	1	0	0%	0	0
計	5,454	848	15.5%	24	281,400,447

(参考)

医学部創立90周年における同窓会からの寄附状況(2010年3月末)

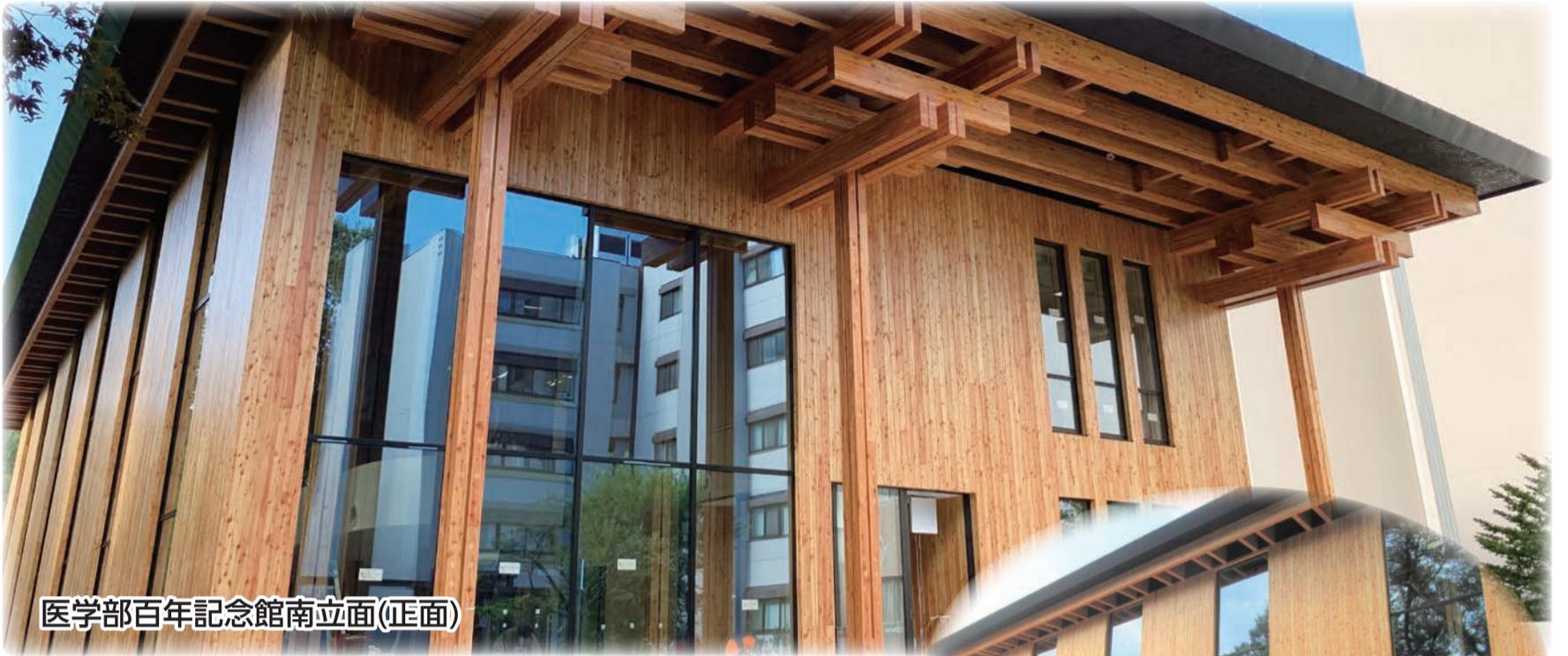
全体数	寄附者数	寄附率
6,272	1,656	26.4%



北海道大学 医学部
創立100周年

北海道大学医学部百年記念館

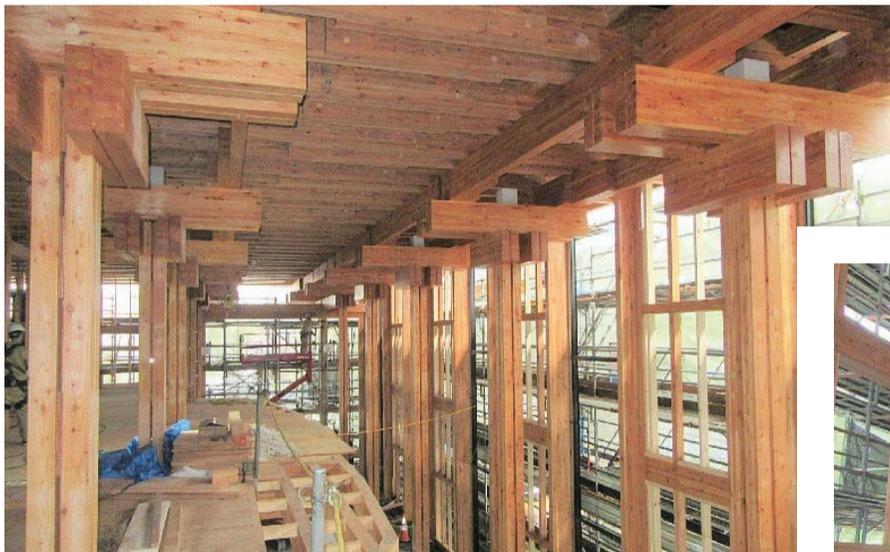
～工事の進捗状況をお知らせします～



医学部百年記念館南立面(正面)



光をとりこむ
開放的な窓設計。



エントランスホール
螺旋階段



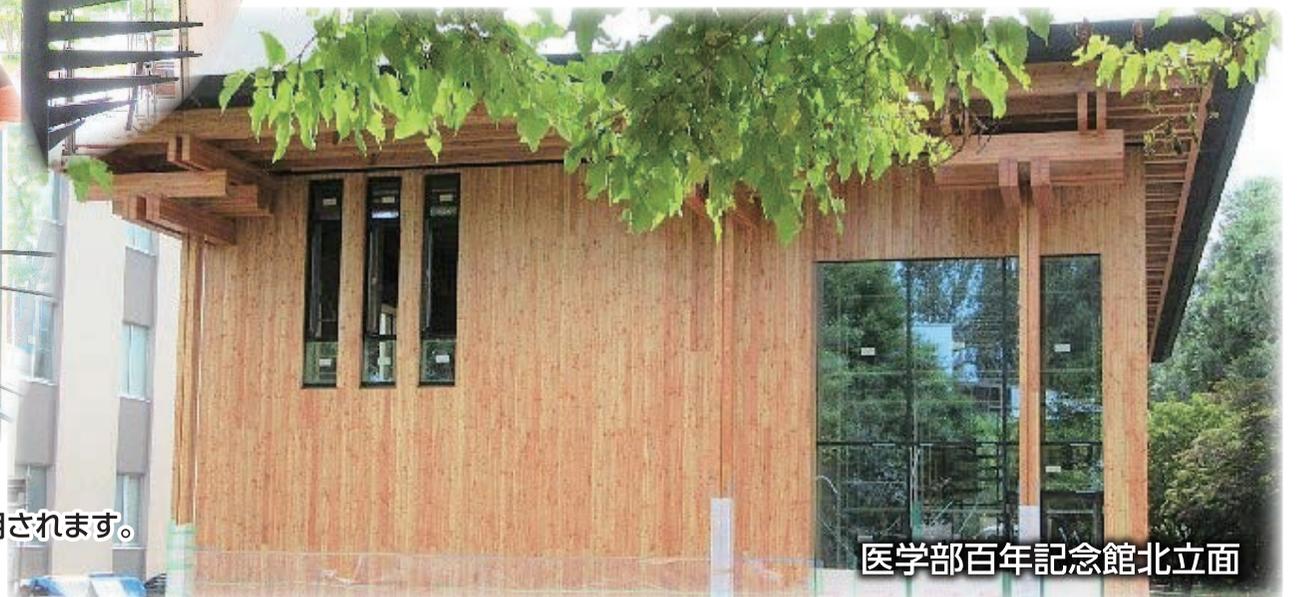
1階エントランスホール

ご寄附をいただいた方のご芳名を刻印した
銘板を掲示させていただきます。



2階ホール

会議・同窓会行事会場として使用されます。



医学部百年記念館北立面



令和元年5月27日

2階床の大梁の設置が完了し、続いて柱の設置へと移行していきます。木構造部分の4割ほどが完成となります。



令和元年6月14日

引き続き、屋根レベルの梁部材の設置を行っています。柱頭を施工しており、現在は4層あるうちの最上部を施工しています。



令和元年7月29日

外部足場が外れました。
ようやく建物の外観が現れました。
引き続き内装工事と並行して、外構の工事がはじまります。

医学部百年記念館は 令和元年9月20日に完成します。

10月9日(水)から12日(土) (8:30~17:00)の期間中、御自由に館内を御覧いただけます。

医学部百年記念館建設の進捗状況は
随時ホームページにてお知らせいたします。
(<https://www.med.hokudai.ac.jp/100th/>)

現場着工時より、工事の進捗に合わせ、医学部北研究棟屋上からの現場写真をほぼ定点で撮影してきました。
これらの写真を元に、同窓生の皆様へ建設工事の進捗状況をお知らせいたします。



令和元年6月3日

2階及び1~2階の通し柱の設置が完成し、屋根レベルの梁部材の設置が始まりました。
この建物の柱頭は伝統的な寺社建築に用いられている「斗拱」をモチーフとしており、4層あるうちの下位2層を施工しています。



令和元年7月17日

屋根の工事が完成しました。
木の下地の上に、防湿気密シート、断熱材、アスファルトルーフィング、鋼板張り(熱溶接防水工法)を重ね併せています。ひさしの先端は、ファサードがシャープに見えるよう、ガルバリウム鋼板で加工し取り付けられています。



令和元年8月21日

令和元年8月16日、仮囲いが外れました。まだ工事中にはありますが、外観を眺めることができます。

フラテ106号発行のお知らせ

医学部フラテ編集部

同窓会新聞をご覧の皆様、いつも学友会誌フラテをご購読いただき、誠にありがとうございます。皆様の温かいご支援を賜り、今春に「フラテ105号」を無事発刊することができました。

さて、我々フラテ編集部では、来年3月発行予定の「フラテ106号」の発行準備を進めております。本号では「フラテ各地に行く」として滋賀県に取材に伺う他、北大医学部100周年に合わせて記念記事の掲載などを予定しております。100号以上続く学友会誌として、少し他とは違った切り口で北大医学部の歴史を紐解き、楽しくお読み頂ける記事を目指しま

す。また、記事を通して北大医学部100周年を後世に対して記録する、学友会誌としての役割を果たせればと思います。

我々フラテ編集部は、「北大同窓生の茶の間」であるべく、本号もほっと一息ついて頂ける温かい記事を多数ご用意しております。近年は比較的若い先生方からのご購読が減少傾向にあります。もし、この文章で少しでも興味を持って頂いた先生がいらっしゃいましたら、是非ご購読下されば幸いです。

ご購入をご希望の方は、同封の払込用紙にてお支払いをお願い致します。バックナンバーもご用意しております。すでに105号巻末の用紙で申し込まれた方は今回申し込む必要はございません。

【106号の主な内容（予定）】

- ・特集記事
「北大医学部100周年記念記事」
- ・秋田病院長就任記念インタビュー
- ・フラテ各地に行く 滋賀編
- ・教室だより、各教室の勉強会、説明会一覧
- ・新任教授インタビュー
- ・みどりのベンチ（医療界で活躍する女性へのインタビュー）
- ・茶苑
- ・学生の広場

【フラテ茶苑 寄稿者募集】

フラテ茶苑では、卒業後の先生方からのご寄稿文を掲載しております。期を問わず、ご自身の専門分野、趣味等をご投稿頂けます。多くの学生が読んで

おり、北大出身の先生方の多彩な分野でのご活躍は学生にとって視野を広げる格好の機会となっております。様々なバックグラウンドを持つ先生方がフラテ茶苑を通して交流できる、そんなコーナーにしていけたらと思います。今年度も沢山のご寄稿をお待ちしております。

○内容・形式・字数：自由（専門分野のお話、趣味のお話、最近取り組んでいる事など）

○〆切：2019年11月30日

フラテ編集部

E-mail: frate.med@gmail.com

〒060-8638

札幌市北区北15条西7丁目

北海道大学医学部内

告知板

<学内・院内人事異動>

<辞職>

2019年6月30日 藤間 憲幸(80期) 放射線診断科 助教 (Boston Medical Center)

2019年7月31日 秦 洋郎(78期) 皮膚科学教室 助教
(はた皮膚科スキンケアクリニック院長)

<採用>

2019年6月1日 高橋 誠(会員2) 医学教育・国際交流推進センター 教授

2019年7月1日 木下 一郎(64期) がん遺伝子診断部 教授

金野 陽輔(76期) 婦人科 助教

野本 博司(82期) 内科II 特任助教

2019年8月1日

坂本 圭太(83期) 放射線診断科 助教

原田太以佑(84期) 放射線診断科 特任助教

横山 絵美(84期) 血液内科 特任助教

山田 雅文(66期) 小児科学教室 准教授

工藤 興亮(71期) 画像診断学教室 教授

野口 卓郎(79期) 腫瘍内科学教室 助教

大野 正芳(83期) 消化器内科学教室 助教

2019年9月1日

表 和徳(会員2) 循環器内科 特任助教

鎌田 壘(会員2) 心不全遠隔医療開発学分野 特任助教

<その他>

2019年9月1日 青山 英史(70期) 陽子線治療医学教室 客員教授

事務局からお知らせ

ご寄付の報告とお願い

同窓会では、企業、団体、個人の皆様に、同窓会事業支援のためのご寄付をお願いしております。

ご寄付をいただいた場合、ご了承を得て同窓会新聞にご紹介し、10万円以上のご寄付には、楯または額による感

謝状を贈呈させていただきます。

ご寄付につきましては、同窓会事務局にご連絡ください。

電話 : 011-706-5007

E-mail : furate@med.hokudai.ac.jp

会員名簿の処分にお困りの方へ

会員名簿には個人情報掲載されていますので、ご不用になった名簿は、例えばシュレッダー処分または焼却処分をお願いいたします。なお、ご自身で処分が困難な方は、レターパック等で同窓会事務局へ送ってください。

なお、恐縮ですが送料は各自でご負担願います。

〒060-8638

札幌市北区北15条西7丁目

北大医学部百年記念館

北海道大学医学部同窓会事務局

同窓会費について

○会費納入のお願い

会員の皆様には、会費納入にご協力いただきありがとうございます。

同窓会の事業は会員の皆様の会費によって運営されています。今後も意義ある同窓会活動を継続していくために、会費納入にご理解とご協力をお願い申し上げます。

○会費納入方法

①口座振替、②コンビニ納入、③銀行振込のいずれかによります。

※詳しくは同窓会新聞に同封される払込票をご覧ください。

○会費未納者と刊行物の送付

・過年度分未納会費が2年を超える会員

には、会員名簿（同窓会誌）をお送りしません。

・会費納入が9月30日を過ぎると、入金確認及び印刷部数確定の都合によりお送りすることができません。

○会費免除者と刊行物の送付

・会則により、卒業後55年を経過した

会員の会費は、翌年度から免除となります。

・38期生は平成30年度から、39期生は令和元年度の会費から免除となりますが、免除前に2年を超える未納会費がある会員には、会員名簿（同窓会誌）をお送りしません。

ドクター総合補償制度のご案内

同窓会では、会員のための「ドクター総合補償制度」を創設し、随時募集を行っています。

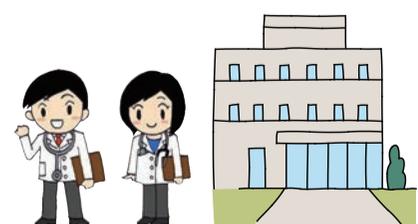
現在、本制度には500名近い会員の皆様が加入しており、大変ご好評をいただいています。

ドクター総合補償制度には「医師賠償責任保険（勤務医向け）」「医療・がん保険」、「所得補償保険」があり、団体割引が適用されるので個人での契約に比べて割安な保険料で加入することができます。

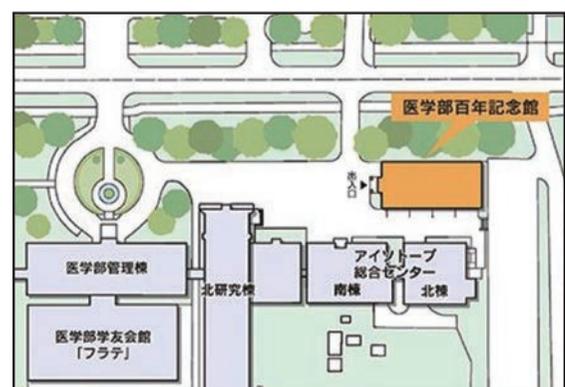
ドクター総合補償制度につきましては、同窓会事務局にお問い合わせください。

電話 : 011-706-5007

E-mail : furate@med.hokudai.ac.jp



同窓会事務局が10月中旬に 医学部百年記念館内に移転いたします。



新刊書紹介



「組織学 改訂20版」
 あべ かずひろ
 阿部 和厚(40期)
 うしき たつお
 牛木 辰男(会員2)著
 南山堂
 ¥11,880

日本で最も長い歴史のある組織学の教科書「組織学」(南山堂)がこの2月に改訂20版として出版された。北大医学部同窓40期で、第3解剖学教室を長く担当されて来た阿部和厚名誉教授の努力によるものである。阿部が師事した組織解剖学の伊藤隆は北大の組織学の初代の教授で、名古屋大学で組織学の初版の著者である戸荻近太郎に学んでいる。この教科書は戸荻から伊藤へひきつがれ、伊藤による改訂には阿部が長くかかわり、改訂19版は伊藤が他界したあと、伊藤・阿部で出版された。近年、組織学の内容が進展し、カラーの図が多い外国の翻訳本もいくつか出てきたが、この名著の改訂も待たれていた

(40期 細川眞澄男)

が、この度、阿部・牛木で生まれ変わるようになった。この改訂には、すべての図をカラーにするためと、最新の情報をいれるために、15年を要した。まず目のつくのは組織学の教科書にとって命である図版の美しいことである。1,000以上もあるすべての図と電子顕微鏡写真には、阿部が手を加えて、見やすく、分かりやすく、しかも統一性のあるカラー版に仕上げている。多くは阿部のオリジナル図で、他の教科書にない最新の情報も含まれている。どの図も精緻で、アートとして鑑賞できる素晴らしい出来である。さすがに、趣味として絵画を愛し、絵画に造詣の深い阿部ならではの図版であり、ページをめくるだけで、組織学の全体像がみえてくる。また、学生にとって読みやすい簡潔な文章となっていて、体裁、厚さも使いやすいソフトカバー本となっている。ネットの書評にもあるように間違いなくトップクラスの組織学の教科書である。



「胃がんでいのちを落とさないために (改訂版)」
 あさか まさひろ
 浅香 正博(48期)
 中央公論新社
 ¥1,296

この本は、2016年1月に初版が発刊された「胃がんでいのちを落とさないために」の改訂版です。2013年2月21日にピロリ胃炎に対して、世界で初めてピロリ除菌が保険適用となって、除菌件数が年間150万人まで急増しました。このような状況の中で、適用拡大の実現に多大な貢献をした筆者が、除菌治療の広がりによって胃がん死亡者を減らしたいとの思いから初版を書き上げました。それからまだ数年しか経っていないのに、日本の胃がん死亡者数が疫学的な予測を上回って急激に減少していることが明らかとなりました。筆者が以前から欧米学術誌に発表してきたピロリ除菌による胃がん死亡者の減少

効果が現実となったことから、改訂版の出版に至ったと推測します。これまでわが国の胃がん死亡者数は30年以上にわたって5万人超で推移していましたが、2013年に4万9千人、2015年には4万7千人を切って2018年には4万4千人まで低下してきました。これはがんセンターの予想死亡者数より10%近く低くなっています。ピロリ除菌が2000年に胃・十二指腸潰瘍に保険適用となってから、ピロリ感染者の3分の1に相当する約1000万人が除菌されたことによって、ピロリ除菌の胃がん予防効果が徐々に現れてきたものと思われます。この本のコンセプトである「胃がんは予防できるがんであり、胃がんで死ぬのはもったいない」を、ピロリ感染者全員が除菌されるまで言い続けなければなりません。

(58期 加藤元嗣)



「一人暮らしの在宅ケア」
 もり きよし
 森 清(63期)編
 南山堂
 ¥2,160

編者は社会医療法人財団大和会 東大和ホームケアクリニック院長として在宅診療を行うとともに、同法人の在宅医療、看護、介護部門を統括している。また、日本在宅医学会と日本在宅医療学会が合併して発足した日本在宅医療連合学会の記念すべき第1回大会の大会長を務めており、この分野の第一人者である。

本書は3部構成で、第1章では、編者が、高齢者が自宅で一人暮らしをすることの意味、意義、課題、かかわる人間の持つべき覚悟について述べている。「自宅で暮らしたいという人がいるのなら、不可能である理由をあれこれ

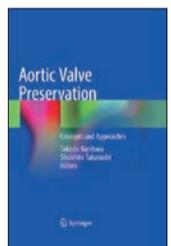
(59期 大村孝志)

れ考えるのではなく、実現するための方法を一生懸命に考えたい。」「独居高齢者は、優秀な思い入れの強いスタッフ一人だけでは支えられず、多くの職種の協働と連携によって守られる。」など、その語り口は熱い。

第2章では8事例について事後検討を行っている。医師、看護師だけでなく、ケアマネジャー、介護福祉士、行政職員、葬儀社、清掃会社まで加わり、まさに多職種が協働した記録である。認知症、末期がん、無縁など困難がありながら自宅で暮らしたいという利用者の希望を叶えようと、多くの人々が大変な努力をしており、ただただ頭が下がる。

第3章はコアメンバーの座談会で、事例検討を踏まえ、問題点や今後の課題が明らかにされている。

臨床医にとって、在宅、介護の世界はこれまでなじみがなかったが、今後は一定の知識、理解が必要である。本書は、そのための良い手引きである。



「Aortic Valve Preservation」
 くらは たかし
 國原 孝(67期)他編
 Springer
 \$179.99

心臓外科の世界は日進月歩である。一昔前には弁膜症の外科治療といえど、弁を切除し人工弁で置換するよりなかつたが、弁形成術が発展し自分の弁を温存して治せるようになった恩恵は計り知れない。今や僧帽弁に対する弁形成術は確立された手術手技であり、世界的に弁置換術よりも多く行われるようになったが、一方で同じ左心系の弁である大動脈弁に対する弁形成術は、未だに「難しい手術」として忌避されがちである。編者はこの手術の世界的権威であるドイツのSchäfers教授に師事してこれを習得し、日本に持ち帰って広めようとする大動脈弁形成術の伝道

師である。本書は本邦心臓外科の第一人者達が参加し、大動脈弁形成術をブラックボックスではない実現可能な手術としてわかりやすく体系的にまとめ解説する教科書であり、これを英語に翻訳して世界に発信しようという、いわば逆輸出である。洋書でもこれほどの本はなかなかお目にかかるものではない。国内外を問わず、若手からベテランまで大動脈弁形成術を試みる心臓外科医にとって必携の一冊と言えるだろう。

(75期 若狭哲)



フルカラーCGで学ぶ「MR撮像のポジショニングとテクニック」
 かみしま たもつ
 神島 保(70期)監修、
 杉森博行(会員外)著
 メジカルビュー社 ¥5,940

本書は放射線診断専門医の監修のもと、診療放射線技師が執筆したエックス線写真撮影技術の指南書「フルカラーCGで学ぶ X線撮影のポジショニングとテクニック」の続刊である。お二人は北海道大学病院での長期にわたる勤務経験

を経て、現在は北海道大学大学院保健科学研究院で活躍中である。これが意味するところは、画像診断の現場における豊富な臨床経験に、大学の講義室での教育実践が加わることで、実用的な教育資料が結実したということである。

実際にページをめくると、フルカラーCGにより視覚的に正しいポジショニングが即座に理解できるように工夫されている。撮影対象となる解剖学的部位と各々の主要な撮影法が網羅され、より良い撮像となるようなコツや背景知識が短いコメントとして記載されている。あた

かも被検者を前に、熟練した先輩から指導を受けながら撮影法の手ほどきを受けているようである。また、0章として装置点検、移乗・安全管理・撮像シーケンスの各社読み替えに関する説明もあり、初学者の理解の助けになると思われる。

診断的で優良なMRI画像は、患者を単に寝台に寝かせて、適当にコイルを選び、推奨されているシーケンスを走らせれば得られるものではない。MRI撮影におけるポジショニングの重要性は単純X線撮影と同じ、あるいはそれ以上である。編著者らが、「X線撮影のポジショニング」

の続刊として本書を刊行したのは必然といえる。適切なMRI撮像は技師間のみならず、医師と技師の不断の、かつ良質のコミュニケーションから生まれるものである。その意味で、著者がこれまで培ってこられた様々な知識や技術のエッセンスが本書には満載されており、熟練者に対しても新たな情報を提供しようと考えられる。また、初学者の指導に際しても好適な教科書である。

(56期 杉本英治)



「胃癌・大腸がんを治す、防ぐ!」
こんどう しんたろう
近藤 慎太郎(74期)
さくら舎
¥1,512

著者は、私のスキー部の後輩です。マンガを描くのが得意なことは以前から知っていましたが、現在では内視鏡医として働くかわら、マンガを使って医療情報を分かりやすく伝える活動をしています。今まで2冊の著書が出ていて、これが3冊目になるとのことです。本書では、胃癌と大腸がんの原因や検査方法、ステージ分類、治療法、予後などが、100問のQ&A形式で、イラストとともに分かりやすく解説されています。

ピロリ菌の除菌や、胃カメラとバリウム検査の比較、胃カメラをラクに受けるためのコツ、便潜血検査の診断能力などベーシックなことから、オプジーボやキイトルーダといった最新の免疫

療法についても解説されています。そのほかにも、「肉を食べると大腸がんになるのですか?」「がんの自然治癒はありますか?」「がんの進行は、若い人のほうが速いのでしょうか?」

「ストレスはがんの原因になりますか?」

といった、まことしやかに囁かれてくる情報の検証や、

「がんの生存率が病院によって差があるのはなぜですか?」

「高齢の医師は避けたほうがいいでしょうか?」

「がん検診は何歳まで受ければいいのか?」

といった、医者立場からすれば答えにくいと思うような質問にも、正面から回答しています。

引用文献も豊富で、専門外の医師にはもちろん、専門の医師であっても何らかの気づきがある良書です。

(70期 大西俊介)

過年度会費が2年を超える会費未納者と同窓会誌の発送について

平成26年度より、過年度会費の未納額が2年を超える(=1万円を超える)会費未納者には、会員名簿および同窓会誌の送付を停止することになっております。

前号163号にも掲載しておりますが、**本年度の同窓会誌の送付を希望される方には、2019年9月30日までに未納会費の納付をお願いしております。**

期日以降に納付されましても、印刷部数を確定いたしますので、今年度の会誌をお届けすることはできません。期日までの納入に、ご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

●ご注意ください

【2019年度同窓会誌について】

過年度会費が2年を超える会費未納者の会費納付期限は、2019年9月30日です。たとえ2019年度以内(2020年3月31日まで)に未納額を納付いただきましても、当年度発行の会誌をお届けすることはできません。

【過去の名簿および会誌について】

後日、滞納分を納付いただきましても、個別発送はいたしません。

北海道医学会からお知らせ

○北海道医学会について

北海道医学会は北海道における医学と医療の進展を図るため、大正12年に発足した学術団体です。現在は、北海道大学、札幌医科大学、旭川医科大学の医師、医学研究者のほか本会の目的に賛同される方々を一般会員として、また道内の主要医療機関には特別会員として、本会に功績のあった方々には名誉会員としてご参加いただいています。

○主な活動内容

- ・機関誌「北海道医学雑誌」の発行(5月、11月：令和元年は第94巻)
- ・学術集会「市民公開シンポジウム」の開催(10月下旬：昭和42年から実施)

・若手研究者への「研究奨励賞」の授与(年3名以内に賞状及び副賞：昭和58年から実施)

※北海道医学雑誌は大正12年8月の創刊以来、戦中、戦後の一時期を除いて今日に至るまで継続して刊行され、北海道における医学総合雑誌として広く認知されています。

本誌は原著論文、学位論文以外にも、「研究会」「教室だより」などのセクションにおいて会員の様々な活動を紹介しています。

○会員の状況(平成31年1月1日現在)

- ・一般会員 668名(年会費 4,000円)
- ・学生会員 9名(年会費 1,000円)
- ・特別会員 4団体(年会費 25,000円)
- ・名誉会員 142名

○入会のご案内

本会に入会されていない同窓会員におかれましては、是非ご入会いただきますようご案内申し上げます。医療機関としてのご入会も歓迎します。

なお、会員には機関誌「北海道医学雑誌」を発行の都度お届けいたします。

入会方法は、北海道医学会事務局にお問い合わせください。

○「北海道医学雑誌」の原稿募集

・募集する原稿は、「原著論文」「症例報告」「総説」「速報」「学位論文」「学位論文の要旨」「BAY(Best Articles of the Year)」「研究会抄録」「談話会抄録」等です。

・「教室だより」「海外だより」等、論文以外の投稿も歓迎します。

・投稿者は北海道医学会会員であることを原則とします。

・投稿規定、掲載料等は、北海道医学会事務局にお問い合わせください。



○お問い合わせ先

北海道医学会事務局

電話 : 011-706-5007

E-mail : digakkai@med.hokudai.ac.jp

同窓会費の納入は口座振替で

同窓会費の納入方法は、①口座振替、②コンビニ納入、③銀行振込のいずれかです。

特に口座振替は、店頭へ出向く手間が省けます。また、納入忘れがないのでとても便利です。

口座振替を希望する方は、事務局にお申し付けください。手続きに必要な「預金口座振替依頼書」をお送りします。ホームページからもダウンロード出来ます。必要事項を記入の上同窓会事務局へ送ってください。

電話：011-706-5007 E-mail：furate@med.hokudai.ac.jp

同窓会費納入のお願い

同窓会事業は会員の皆様から納入された会費によって運営されています。会費納入にご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

ご逝去者

新聞163号発行以降、ご連絡いただいた方を掲載しております。

御逝去年月日	氏名	期	御逝去年月日	氏名	期
2019年			6月15日	橋本行夫	専3
2月3日	横尾和夫	22	6月17日	依田有二郎	37
2月13日	萩原一男	34	6月25日	内藤道興	専5
2月22日	池田栄一	45	7月2日	佐々木克	42
3月14日	浅井榮二	23	7月4日	岩倉秀夫	28
3月16日	諸岡幸雄	専7日	7月5日	森田昭之助	28
3月19日	川倉宏一	35	7月10日	番場敏行	36
4月14日	藤沢耕一	25	8月21日	長川和雄	30
5月19日	国本鎮雄	26	8月21日	山岸薫	専6日
5月28日	大野秀樹	50			

一面の写真説明

「有志竟成 本庶 佑」

北大医学部創立100周年記念事業のブログとして2018年ノーベル生理学医学賞を受賞された本庶佑先生の講演会が開催されました。満員の参加者の中、免疫学研究の歴史的経緯とチェックポイント阻害剤の発見についての講演会と若手へ

のメッセージを込めたパネルディスカッションで大盛会でした。今回の表紙の写真は、プロが撮影したのですが、若者に語りかける本庶先生の生き生きとした表情がとらえられているため掲載させていただきました。タイトルは、本庶先生が、ノーベル博物館に寄贈した色紙に書かれた言葉です。聴衆のなかから、未来のノーベル生理学医学賞受賞者が出ることを期待します。(66期 田中伸哉)

編集後記

平成の最後の4月に医学部設置100周年を迎え、記念事業が目白押しでした。明治生まれの先生方により、大正8年に北海道帝国大学として創立された医学部で、昭和生まれの自分が、平成生まれの後進を指導している、令和の今

日この頃、改めて諸先輩方にいただいたご指導を思い起こしています。令和生まれの後輩を直接指導するには間に合わなさそうですが、平成生まれの先生方も、いずれ脈々と受け継がれていくご指導を(ご寄付も!)お願いいたします。(75期 石田雄介)

同窓会新聞は142号からHP上でご覧いただけます。アドレスは次の通りです。
<http://hokudai-med-dousou.com/news/index.htm>

印刷所 **大日本印刷(株)** 〒065-0007 札幌市東区北7条東11丁目1番1号
代表(011)750-2205